

学校の概要		学校名	安曇野市	立 豊科南小	学校	学校長	奥原 竜司	児童生徒数	709 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
		市町村教委	<input type="radio"/>	自治会代表	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	<input type="radio"/>	PTA代表	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	<input type="radio"/>	学校長・教頭以外の学校職員	<input type="radio"/>	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	豊科南小学校学校運営協議会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		4	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	4月21日	12月20日	2月14日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	根っこをのぼす ～学びの根っこ 心の根っこ 元気の根っこ～									
地域と共有された育てたい子どもの姿	① 学びの根っこ(知) ・自分の良さに気づく(肯定感)、「できる自分」(有能感)を感じる。 ② 心の根っこ(徳) ・いじめをしない、許さない。 ・すすんであいさつ、そうじをする。 ③ 元気の根っこ(体) ・積極的に学び、すすんで体を動かす。 ・自分の力で歩いて登校・下校する。									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			<input type="radio"/>	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			<input type="radio"/>	
2	学校運営への必要な支援について			<input type="radio"/>						
3	地域の実情や課題について			<input type="radio"/>	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			<input type="radio"/>	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	30	人
								参加者延べ人数	100	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	<input type="radio"/>	読み聞かせ	<input type="radio"/>	児童会、生徒会	クラブ、部活動	<input type="radio"/>	給食		休み時間
	清掃	<input type="radio"/>	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	<input type="radio"/>	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	<input type="radio"/>	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	<input type="radio"/>	国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	①百石堰クリーン大作戦(6月10日)			②4年米作り(稲刈り)(10月2日)			③読書旬間おはなし会(12月6日)			
	代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
①について:学校ビオトープの一つ「百石堰」について、3年間のコロナ禍において整備活動が一切行われてこなかった。汚泥が沈殿し、雑草が繁茂したこの百石堰の環境整備活動を行うボランティアを地域回覧板で募集したところ、40人が集まった。1時間半ほどの作業であったが、泥上げ、泥の運搬、雑草の駆除・運搬を行い、大きく状況が改善した。主体的に楽しんで活動した参加者の声を受け、2回目を10月14日に実施した。このときも40名が集まり、1回目にできなかった箇所を中心に活動した。継続的に実施する必要がある活動であり、意欲的な参加者が多いことから、次年度は年3回に拡充したいと考えている。										
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題 (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)										
地域ボランティア組織を立ち上げたが、ボランティアの意向と教職員のニーズをつなぎ合わせる事が十分にできていない。										

学校の概要		学校名	安曇野市立 豊科北小 学校		学校長	麻田 記良		児童生徒数	542 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
			市町村教委 ○ 自治会代表 ○			○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール) ○			公民館代表 ○ PTA代表 ○			ボランティアと学校の情報交換会がある							
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員 ○ 学校長・教頭以外の学校職員 ○			ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		豊科北小学校学校運営協議会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
		主任児童委員長 社会福祉協議会 ボランティアコーディネーター 学校支援ボランティア代表						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		2 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月11日 11月7日 2月21日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		○もとめる ○きたえる ○思いやる											
地域と共有された育てたい子どもの姿		○自ら深く考え、自ら行う子ども ○心身ともに健康で、粘り強い子ども ○支え合い共に歩む、明るい子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○			
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				ボランティア登録者人数 39 人 参加者延べ人数 186 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5									
地域学校協働活動の概要													
登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		○ 給食		休み時間			
清掃		ICT		○ 学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習			
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)			
人権教育		国際理解		託児									
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		5年家庭科裁縫授業(5月22日)				3・4年矢原堰クリーニング大作戦(10月27日)				5年わら細工づくりに挑戦(12月19日)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
○5年わら細工づくりに挑戦 学校運営協議会の委員をはじめとする12名の地域の方々に学校に来ていただき、5年生がわら細工づくりに挑戦しました。作ったのはしめ縄飾りです。束を3つ作り、紐で固定し、左巻きで一束ずつ編んでいきます。そして、できあがった束をさらに編み込み、輪にします。最後に賑やかになるように飾り付けをして完成です。困ったら地域の方や友だちに聞いたり、自分なりに工夫したりしながら、オリジナルのしめ縄飾りを作ることができました。昔から伝わる私たちの生活に欠かせなかった縄の存在を、「わら細工づくり」を通して学ぶことができました。 学校運営協議会の委員の方から、「体験することが大事」「教えるのが生きがいと考えている地域の方はたくさんいる」「国際色豊かな世界、自分を表現できる力(コミュニケーション能力)、自分のルーツを表現できる子どもに育ってほしい」といった言葉をいただきました。地域の方の思いを子どもにつなぐ貴重な機会にもなったと思います。													
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題 (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)													
○学校職員から家庭科授業ボランティアの依頼があったとき、教頭が地域コーディネーターと連絡を取り、人材を確保していただき、授業支援をしていただいた。総合的な学習のボランティアでも、学校職員がこれまでお世話になったことがあるボランティアの方に連絡し、授業支援をしていただいている。期日が決まる活動に対してのボランティアは、比較的人材確保の依頼をしやすいが、年間を通しての活動に対するボランティア(合唱・吹奏楽の指導、花壇の手入れなど)は人材確保が難しい状態である。													

学校の概要		学校名	安曇野市 立 豊科東小 学校	学校長	馬淵 勝己	児童生徒数	171 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	豊科東小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員 社会福祉協議会職員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				
	会議開催数(予定)		3 回	今年度開催日(予定)	6月5日、12月13日、2月(日時未定)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民				
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	知・徳・体のバランスのとれた健全な発達										
地域と共有された育てたい子どもの姿	1 よく考え すすんで学び 行動する子ども 2 思いやりがあり 美しい心の子ども 3 がまん強く たくましい子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○						
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○						
3	地域の実情や課題について	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	59 人					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				参加者延べ人数	195 人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	○
	清掃	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育	国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	花壇づくり(7月12日、11月8日)			遠足引率(10月24日)			焼きいも集会(11月30日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
・花壇づくり 児童会「エコ自然委員会」が行う花壇づくりに、ボランティアの方(7月11名、11月12名)にお手伝いいただいた。これまでは、地区の回覧板で支援を依頼していたが、今年度は地域Coをお願いをし、ボランティアの方を集めていただいた。目の前にある同じ花を見ながら、植え方や並べ方について一緒に相談して取り組んだ。7月は一緒に植えていただくことが主であったが、11月は見守っていただくことが主になった。 植え方について相談したり、家での花植えについて話したりすることで、子どもたちのコミュニケーション能力を伸ばす機会につながった。また、6年生の役員児童については、始めの会や終わりの会を企画し、運営するための力を養う活動にもなっている。											
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題 (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)											
支援をお願いするだけでなく、「一緒にやる」「一緒に楽しむ」ことも目指していくために、人材を確保したり、その方々との関係や連絡を密にしたりしていくこと。また、依頼や募集、時間の変更といった連絡を手軽に行うための発信ツール。											

学校の概要		学校名	安曇野市立 穂高南小 学校		学校長	伊藤 政子		児童生徒数	608 名												
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																					
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について															
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○			ボランティアのリストがある												
			市町村教委			○			自治会代表			○			○			ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表			○			PTA代表			○			○			ボランティアと学校の情報交換会がある			
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員			○			学校長・教頭以外の学校職員			○			○			ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		穂高南小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター		人								
		・民生児童委員			・社会福祉協議会			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		2		人									
会議開催数(予定)		2		回		今年度開催日(予定)		5月31日 2月27日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民									
										具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)											
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																					
学校教育目標		美しさあふれ ことばひびきあい 活気みなぎる学校																			
地域と共有された育てたい子どもの姿		「かしこく 心ゆたかに たくましく」 生きる穂高南の子																			
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況															
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。												
2		学校運営への必要な支援について			○																
3		地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○									
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)												
5		教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		130 人								
										参加者延べ人数		45 人									
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		○		休み時間							
		清掃		○		ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山				キャリア教育(職場体験を含む)					
		人権教育				国際理解		託児													
学校・家庭・地域の協働した取組例																					
		おうちの方と楽しむお話し会 低学年(7/13)				よもぎ団子作り 1学年(5/29)				マラソン記録会安全見守り 2学年(11/13)											
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																			
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																					
読み聞かせボランティアの方々による読み聞かせを春と秋の読書旬間に学級ごとに行っていた。今年度は、授業参観日の放課後に「おうちの方と楽しむお話し会」を行っていた。 担任との情報共有の中で、最近の子どもたちが昔話への興味・関心が低くなっていることを知ったボランティアさんが、定期的に読み聞かせをしたいと申し出てくださり、活動が位置づけられた。 これらの活動を通して、子どもたちが本に興味を持ち、より読書に親しむことができている。 ボランティアの皆さんが子ども達の反応を楽しみにしてくださっており、大変有り難く感じている。																					
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題 (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)																					
学校を理解してもらい、学校の教育活動にかかわっていただけるよう、日常的な情報交換を大切にしていきたい。 登下校の見守りをしてくださる方を新たに募集している。																					

学校の概要		学校名	安曇野市 立 穂高北小 学校	学校長	唐澤 信好	児童生徒数	611 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○ 学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	人					
	徳高北小学校学校運営協議会 地域住民 社会福祉協議会				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	2	人				
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定) 第1回:R5 5月31日 第2回:R5 11月22日 第3回:R6 2月27日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民						
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	○かがやく生命:一人ひとりの”いのち”を大切に 一人ひとりが”いのち(自分のもっている力)”を高め合う ○ひろがる笑顔:良さや違いを認め合い お互いに支え励まし合い喜び合い 笑顔を交わし合う										
地域と共有された育てたい子どもの姿	1 よく考える子 2 仲間を思いやる子 3 とともに高め合う子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○						
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○						
3	地域の実情や課題について	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	30	人				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				参加者延べ人数	300	人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		登下校の交通安全(通年)		特別支援学級校外学習(5月25日)		環境整備 落ち葉はき(11月14日)					
代表的な協働した活動の取組例											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
今年度は、地域の方と活動する児童の様子や本校の取り組みを知っていただくためにボランティア通信を作成し、北小区へ回覧文書として回覧をした。またその際に学校支援ボランティアの募集を併せて行ったところ、新規に5名(安曇野社協朗人大学の方を含む)の方がボランティア登録をいただいた。晩秋の校地は落ち葉でいっぱいになるため、新規のボランティアの方を中心に、環境整備ボランティアとして落ち葉拾いを実施した。”児童とともに(協働)”をモットーとし、1年生クリーン作戦と題した落ち葉掃きでは、ボランティアの方と児童とのよいふれあいの機会となり、和気藹々としたなか活動を行うことができた。以下は1年生児童の感想である。 — 1年生 クリーン大作戦(落ち葉はき)感想 — ○落ち葉をいっぱい取って、きれいになってよかった。○お手伝いに来てもらって、協力して拾えたから楽しかった。 ○落ち葉集めをがんばってできた。○落ち葉をたくさん取って、楽しかった。○はじめは大変そうだったけど、みんなでやったら楽しかった。 ○おじちゃんやおばちゃんとみんなでやったら、こんなにきれいになるんだね。											
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題											
(運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)											
・ボランティアの人材確保 ・活動や本校の思いが継続して行えるようなコーディネーターの存在 任期満了後のコーディネーターの円滑な移行または継続											

学校の概要		学校名	安曇野市 立 穂高西小	学校	学校長	松下 玲	児童生徒数	381 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人		
	徳高西小学校学校運営協議会			学校応援団代表 地域有識者 民生児童委員 社会福祉協議会 校長		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	2 人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月15日 9月22日 2月26日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民			
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	民生児童委員			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	○よく考え、粘り強い子 ○自ら気づき、進んでやる子 ○広い心で思いやるのある子								
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域にある宝(学習の素材など)に目を向け、それをきっかけに学ぶことで、また、地域の方と関わることで「地域が好きと言える子ども」「地域に誇りを持てる子ども」を育てたい。								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 65 人 参加者延べ人数 300 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
学校・家庭・地域の協働した取組例									
	読み聞かせ		クララ染め		校外学習付き添い				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
新たな取り組みとしては、校外学習の付き添いには特別支援学級の校外学習と1年生の生活科遠足に同行していただいたことである。子どもたちとすぐに打ち解け、参加して下さった皆様にとっても楽しいと思える1日であった。また校内マラソン記録会の交通安全係、交通安全教室の見守り、来入児発達検査時の控室での児童支援、1年生の学習習慣形成のための見守り等、児童と直接かかわる活動がだんだん当たり前になってきている。実際に児童とかかわるにあたっては「学校であったことを他の場所でしゃべらない。特に児童の個人にかかわることや先生のことについてはしゃべらない」という守秘義務のことや具体的な支援方法について事前に打ち合わせをすることができたことで、当日にスムーズな支援をすることができたと感じている。これらの「児童支援」にかかわることについては、ロコミでボランティアの人数が増えていっているということも穂高西小の特徴である。「実際に運営本部のメンバーが体験してみて、それから周りに伝えていこう」というコンセプトでスタートしたのだが、学校側がどれだけ説明しても、実感を持った地域の方からの説明にはかなわない。秋にはミシンボランティアも発足した。6月に行った「1年生の学習支援」では、子どもたちの困り感に寄り添って下さったり、励ましの言葉をかけて下さったことで、1年生が非常に落ちついて学習に取り組む姿が見られるようになった。									
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題 (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)									
○持続可能なシステムに 「環境応援団」「落ち葉」「田畑応援団」「活動応援団」等のいくつかの部に分かれ、それぞれに窓口を任命するということが位置づいたが、窓口となる方やコーディネーターの方がいつまでも参加できるとは限らない。どういう引継ぎをしていくかということを現在検討中である。									

学校の概要		学校名	安曇野市 立三郷小	学校	学校長	内山 一好	児童生徒数	916 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	三郷小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 社会福祉協議会地域福祉係職員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	人				
	会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)	6月30日 10月20日 2月21日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民	4 人			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	自ら学ぶ子(やる気) 心豊かな子ども(思いやり) 明るくたくましい子ども(健康)											
地域と共有された育てたい子どもの姿	全校の合言葉 ～「まなびあい」「ひびきあい」「みがきあい」～ ・わからないと言える子ども ・一緒にやろうと言える子ども ・友だちの声に耳を傾ける子ども ・納得するまで追究できる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 40 人 参加者延べ人数 180 人				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5							
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	○	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例							米づくり(アイガモ農法)4月～11月		ドリームチーム 家庭科(ミシン縫い)支援 6月		りんご学習 4月～11月	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
ドリームチーム 家庭科(ミシン縫い)支援 6月 本校の学校応援団組織「ドリームチーム」のメンバー(保護者や地域の方)が、目印の赤いビブスをつけて授業支援に入ってくださいました。家庭科だけでなく各学年のニーズに応じて、算数・図工・体育、音楽会や運動会などの行事など幅広く支援に入ってください、困っている子どもの様子を見守りながら、必要に応じてそっと声をかけてくださっていました。担任だけでなく、いろんな方が教室に入って見守ってくださっているという安心感を持って、子どもたちは学習を進めることができました。												
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題 (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)												
「教師一人の価値観だけでなく、子どもたちに多様な価値観に触れながら学んでほしい」という願いのもと、今年度は、「保護者や地域の方が教室の中にいるのが当たり前なこと」になることをめざしてきました。1学期当初、支援に入ってくださいました方々からは、「楽しかった」「こちらが元気をもらった」という声をいただき、まさに、学校を核とした地域づくりにもつながるようになってきました。そして、2学期になって何度も支援に入ってくださいようになると、もっと具体的に支援の中身(例:この子に、この様な支援をお願いしたい)を示して欲しいという要望も多くなるようになってきました。それだけ、支援に入ってくださいる方々も、何とか子どもたちを育てていきたいという熱意をもって臨んでくださっていることが伝わってきました。それに少しでも応えるために学校は…学校応援団「ドリームチーム」が今後さらに活性化していくために大切に考えていきたいと思っております。												

学校の概要		学校名	安曇野市 立堀金小	学校	学校長	小平 伴紀	児童生徒数	426 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	堀金小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員 社会福祉協議会		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	3	人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	4/28(金)、10/24(火)、2/15(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	みつける きたえる 思いやる									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から考え学ぶ子(友だちの思いを聴いて考えを深める。自分の考えをやすく伝える) ・ねばり強くがんばる子(自分のめあてに向かって努力する。元気を動かしきたえる) ・人やものにやさしくできる子(友だちのいいところを見つける。感謝して掃除をする。気持ちよい挨拶をする) 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	50 人	
								参加者延べ人数	400 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		ボランティア全体会(6月19日)		5,6年拾ぐ壊クレーン大作戦(10月4日)		クラブ活動(10月～11月)				
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>今年度、初めて全校児童とボランティアの方々(登下校見守り、おはなし宝ばこ(毎週月曜日の読み聞かせ)、ベルマーク)との顔合わせ会を実施した。今まで、様々な場面でお世話になっていたが、児童や職員と顔を合わせることがなかったので、とても良い機会となった。この会を行ったことで、児童も地域の方への感謝の気持ちが芽生え、登下校時は見守りの方へ積極的に挨拶ができるようになった子が多い。</p> <p>全体会の後は、部会を行い、活動の確認や児童の様子などの情報交換を行った。地域での子どもの様子を知ることができた。ボランティアのメンバー同士も初めて顔を合わす方もいて、良い交流の場となったようだ。</p>										
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題										
(運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)										
<p>本校は、多くの方の協力いただき、大変ありがたい。また、行事等にもコーディネーターさんが、人材を確保してくださっている。しかし、担当職員とボランティアさんとの細かい打ち合わせはなかなか実施できない状況である。今後の課題である。</p>										

学校の概要		学校名	安曇野市 立明南小	学校	学校長	竹内 幸浩	児童生徒数	199 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	明南小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 社会福祉協議会代表、青少年健全育成会代表、地域住民		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人	
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		2	人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	①5月 9日(火) ②9月28日(木) ③2月20日(火)予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		青少年健全育成会		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	夢をゆたかに 未来をになう子ども かしこく やさしく たくましく									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの個性を大切に、伸ばしていける子ども ・「人とのつながり」を大切に、「明るい気持ちになれるあいさつ」ができる子ども ・自らすすんで、学習や諸活動に取り組む子ども 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 40 人 参加者延べ人数 590 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		登校時の低学年支援(4/12 通年)		読み聞かせ(6/8 通年)		折り紙クラブ(9/7 通年)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○ 読み聞かせ 1年生は週2回、2年生は週1回、3年生以上は1学期に1回、朝読書の時間に「とんがりサポートによるお話の会」と題して、読み聞かせを行っていただいている。5分という短い時間ではあるが、ボランティアの皆さんは絵本を読むだけでなく、時には紙芝居だったり、時には人形劇だったり、時には手品を披露したりと様々な工夫を凝らして子どもたちを楽しませてくれている。子ども達も大変親しみを感じており、地域の皆様に見守られながら安全で楽しい学校生活が送れていることを実感している。読み聞かせボランティアには、昨年までの2名に加え、今年度から新たに2名が登録していただき、より多くの回数を実施することができている。										
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題 (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)										
とんがりサポートの皆様には、様々な学校教育活動へのボランティアをお願いしているが、なかなか活動に合った人材を確保できないのが現状である。老若男女、より多くの方々に登録していただき、その方々の得意分野をうまく生かしながら学校のニーズにも応えていけるような調整が図れると良い。その為には、地域コーディネーターがひとつの専門職として学校に配属されるようにする等、大きな改革が必要であると思われる。また、どうしても学校側からの要請が多くなってしまい、一歩通行になりがちである。お互いにプラスになる関係を構築していきたい。										

学校の概要		学校名	安曇野市立 明北小 学校		学校長	高野 恵理		児童生徒数	86 名																
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																									
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○			ボランティアのリストがある																
			市町村教委		自治会代表		○			○															
			公民館代表		PTA代表		○			○															
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○																
			[その他の委員]※具体的な役職名を記入						○																
名称 明北小学校学校運営協議会			地域住民 社会福祉協議会職員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター		人														
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		2	人													
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)	5月26日	9月27日	2月20日(予定)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			地域住民														
									具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)																
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																									
学校教育目標		明るく ゆたかに 生きる 子ども ～行き交う子らが 温かい学校～																							
地域と共有された育てたい子どもの姿		○自ら動き出す子ども ○よく遊び、よく働き、よく学ぶ子ども ○なかまを思いやる子ども ○自然や社会とかがわり、地域を愛する子ども																							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																			
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。															
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。															
3		地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)															
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて						4		協働活動に参加したボランティアの人数															
5		教職員の任用に関する一般的な要望について						4		ボランティア登録者人数		21	人												
										参加者延べ人数		25	人												
地域学校協働活動の概要												登下校の見守り		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○			
												清掃		ICT		○		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		給食	
												土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		給食	
												人権教育		国際理解		託児								給食	
												給食													
												給食													
												給食													
代表的な協働した活動の取組例																									
(上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																									
○ クラブ活動や授業における指導をしていただいたことで、専門的な知見を児童に指導していただくことができた。																									
○ 児童のやりたいことを専門的な知見から教えていただくことができ、集中して取り組むことができた。																									
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題																									
(運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)																									
○ 継続的な活動というよりも、必要に応じて依頼するケースばかりであった。																									
○ 長年の慣例もあり、新規に依頼することが、ほとんどなかった。																									